

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	165	スポーツツーリズム戦略推進事業		新沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(9)-ア-①		
担当部署名	■当年度 □後年度(年度)		事業実施(予定)年度	H24 ~ R13 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	スポーツコンベンションの推進とスポーツ交流拠点の形成 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	スポーツを通じた観光誘客を推進するため、スポーツイベントの創出支援、スポーツ旅行に係るプロモーションの実施、プロ野球キャンプ・サッカーキャンプに係る情報発信、多言語に対応できる人材確保、スポーツコンベンションの誘致等を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	233,789		233,789		261,624
		(b)予算現額	266,789		296,289		261,624
		(c)増減額(b-a)	33,000	0	62,500	0	0
		(d)前年度繰越額	0				
		A. 計(b+d)	266,789	0	296,289	0	261,624
	B. 執行済額		259,591		284,686		247,870
	うち交付金充当額		207,673		227,747		198,296
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		97.3%	#DIV/0!	96.1%	#DIV/0!	94.7%
予算の状況の説明		予定していた合宿実証がキャンセル(国際大会出場が決まったため)になったこと等により執行率は94.7%となっているが、ほぼ計画通り執行できた。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	①スポーツイベントの創出及び定着化支援	目標	3件	3件	6件	4件	
		実績	5件	15件	5件	4件	
	②国際スポーツ大会開催支援	目標	2件	1件	-	-	
		実績	2件	0件	-	-	
	③プロモーション実施件数	目標	15件	16件	26件	26件	
		実績	25件	45件	53件	57件	
	④プロ野球キャンプ等の受入市町村等と連携した活動	目標	連携した活動	連携した活動	連携した活動	連携した活動	
		実績	連携した活動の実施	連携した活動の実施	連携した活動の実施	連携した活動の実施	
	⑤県内スポーツコンベンション相談件数	目標	200件	200件	210件	210件	
		実績	184件	108件	123件	223件	
	⑥スポーツコンベンションの誘致	目標	誘致活動	誘致活動	誘致活動	誘致活動	
		実績	誘致活動の実施	誘致活動の実施	誘致活動の実施	誘致活動の実施	
	⑦関係機関と連携したサッカーキャンプ誘致活動の実施	目標	誘致活動実施	誘致活動実施	誘致活動実施	29クラブ誘致	
		実績	誘致活動実施	誘致活動実施	誘致活動実施	24クラブ誘致	
⑧観光客増加に係る取組の実施	目標	観光客増加に向けた取組の実施	観光客増加に向けた取組の実施	観光客増加に向けた取組の実施	5媒体による情報発信		
	実績	キャンプ地情報の発信	キャンプ地情報の発信	コロナ禍により非公開	5媒体による情報発信		

進捗状況説明

- ①②新規のスポーツイベントには補助率を高く設定し、2年目以降のスポーツイベントは補助率を下げるなど、スポーツイベントの定着化が図られるよう、支援枠を設定して、スポーツイベントの支援を行った。また、事業者の稼ぐ力を向上させるため、本体イベントに付帯する事業についても支援を行った。
- ③テレビ、雑誌などのメディア、スポーツチーム、WEB等を活用したプロモーションを実施するとともに、県内のランニング、サイクリングコースの紹介やゴルフ場の情報など、通年で楽しめる沖縄のスポーツ環境のプロモーションを展開した。目標を上回る57件のプロモーションを実施し、スポーツを通じた観光誘客の推進が図られた。
- ④プロ野球キャンプ受入市町村との意見交換会を計3回実施し、市町村からの意見・提案を踏まえたキャンプ来訪へ向けたPR活動、プロ野球キャンプ情報WEBサイトの構築、キャンプガイドブックの作成・配布等を行い、キャンプ来訪者の利便性の向上を図るとともに、県内周遊を促すコンテンツを開発することができた。
- ⑤今年度は感染症防止対策を徹底した受入体制が整った状態でスポーツ合宿の需要が高まっており、目標件数の達成ができた。その他WEBサイトにおける県内スポーツ施設の情報掲載、SNS等を活用した情報発信により、本県のスポーツ環境のPRを図ることができた。
- ⑥国際大会誘致やアジア等で開催される大会の事前合宿として、感染拡大防止策を講じ、3か国7競技の受入を実施した。また、国内競技団体等のスポーツキーパーソン招聘による誘致活動を実施した。
- ⑦⑧感染防止対策を徹底のうえ、サッカーキャンプ誘致活動を実施し、24クラブチームを誘致した。

成果目標（指標）及び達成状況

R4成果目標（指標）		基準値 （〇〇年度）	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 （〇〇年度）
①スポーツイベント支援事業によるイベント参加者数	目標		—	—	5,500	
	実績		3,490	8,374	700	
②スポーツコンベンション参加者数（県外、海外）	目標		—	—	2.5万人	
	実績		1.1万人	1.7万人	7.8万人 （速報値）	
③プロ野球キャンプ等を目的とした県外観光客数	目標	—	105,000人	41,500人	88,700人	
	実績	—	0人	9,000人	49,000人	
④競技連盟（各国代表クラス）の合宿件数	目標		29件	30件	29件	
	実績		20件	15件	24件	
⑤スポーツキーパーソン招聘や合宿実証等に取り組んだ団体のうち定着件数	目標	—	2件	2件	2件	
	実績	—	2件	1件	2件	
⑥プロサッカーキャンプを目的とした観光客数	目標	—	14,058人	15,658人	17,185人	
	実績	—	0人	0人	7,030人	
⑦サッカーキャンプ件数	目標	—	29件	29件	29件	
	実績	—	26件	17件	24件	

達成状況説明

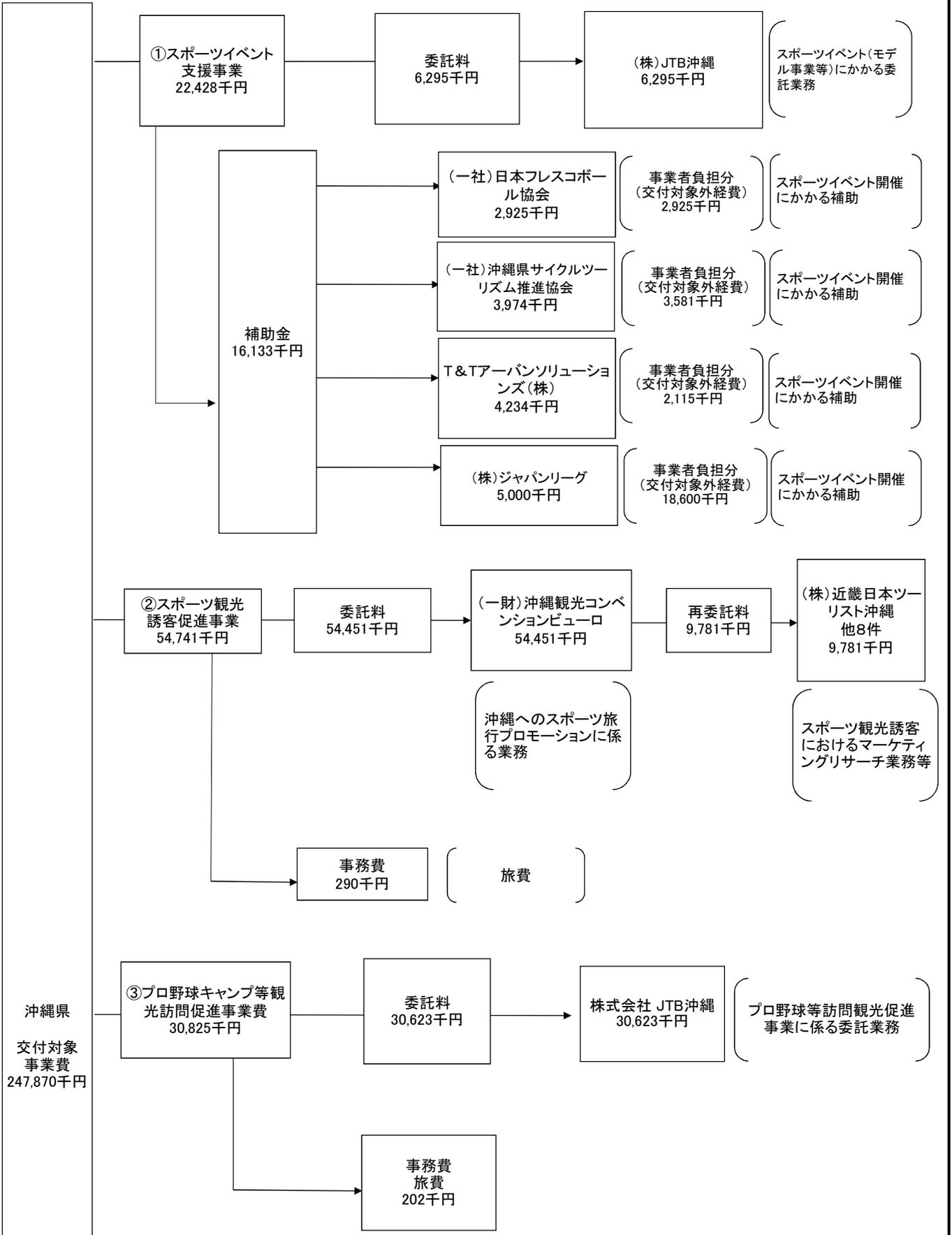
- ①イベントを立ち上げたばかりで周知広報に課題のある事業者が多く、当初想定より誘客に苦慮したため、目標を達成できなかった。
- ②R4年度は速報値で78,467人（観戦客含まず）となっており、コロナ禍前のR元年度（88,586人）に対して、88.6%まで回復している。このうち、県外参加者は76,445人と、R元年度（83,717人）に対して91.3%、海外参加者は2,022人と、R元年度（4,869人）に対して41.5%となっている。
引き続き、効果的なプロモーションの実施に取り組み、早期にコロナ禍前の実績を回復できるよう努める。
※ R4年度の実績については、速報値であるため、今後変動があり得る。
- ③成果目標であるプロ野球キャンプ等を目的とした県外観光客数について、新型コロナウイルス感染防止対策が緩和されたなかでの有観客開催となり観光客数は大幅に増加したが、コロナ禍以前の数値までは回復しておらず目標達成できなかった。
- ④令和4年度における国内外代表チームによる県内合宿件数は24件となり、目標件数達成はできていないが直近3年間の実績と比較すると最多実施件数となっている。
- ⑤スポーツキーパーソン招聘6件、合宿実証10件を活動目標として取り組み、そのうち合宿定着件数2件を成果目標として設定。令和4年度に合宿実証した団体が令和5年度以降に合宿を実施した場合、定着とする。
- ⑥3年ぶりに有観客のキャンプ開催となり、観光客数は7,030人となった。
- ⑦プロサッカーキャンプ件数は16件、アマチュアサッカーキャンプ件数は8件となった。

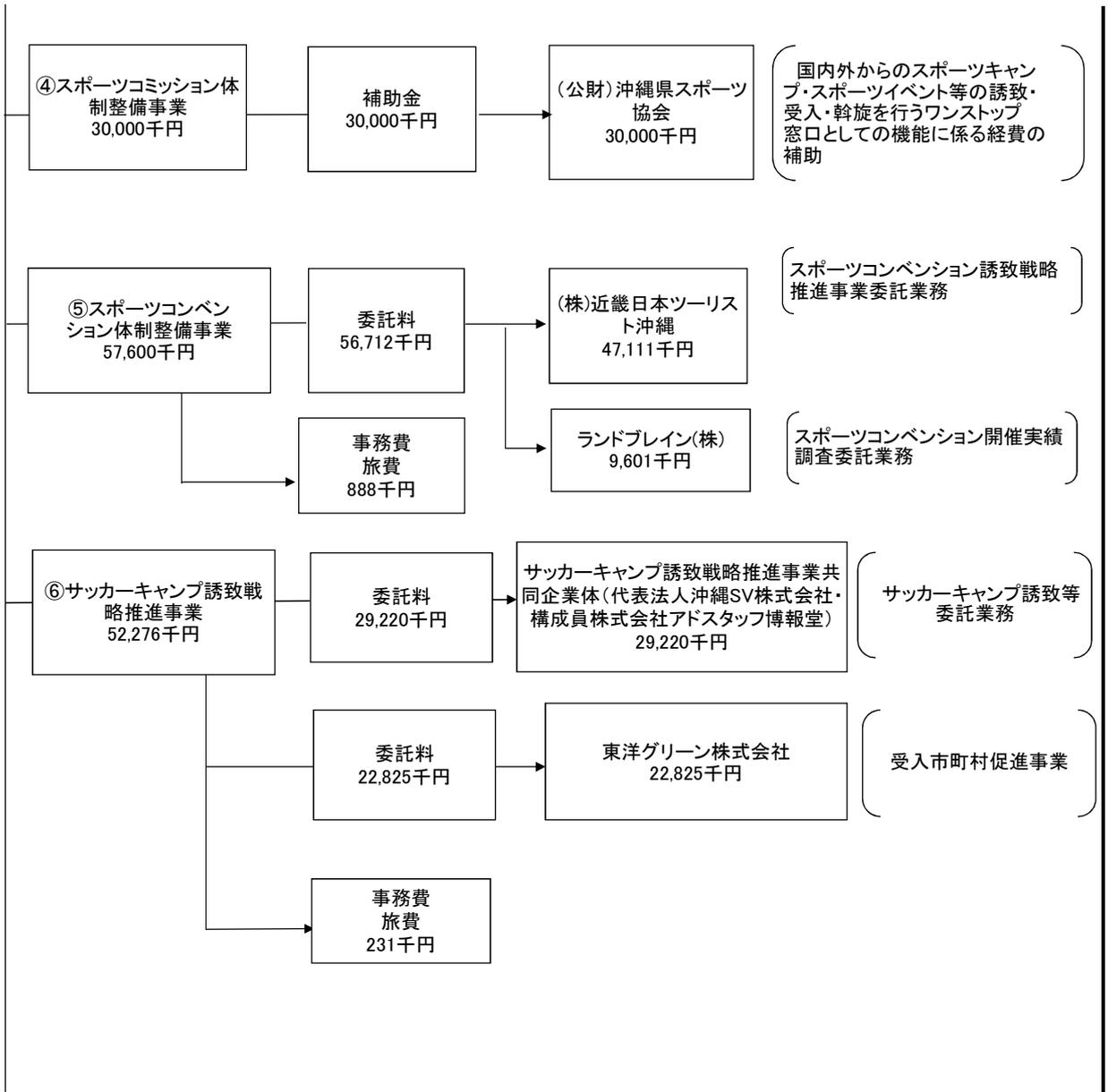
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>①新規に立ち上げたスポーツイベントは認知度が低く、集客方法や運営等の課題がある。</p> <p>②新型コロナウイルス感染症拡大による観光客への影響については、感染状況や国の動向など、引き続き注視する必要がある。</p> <p>②単にスポーツを通じた観光誘客を推進するのではなく、リピーターの獲得、ターゲットの重点化や魅力的なコンテンツの確保など、プロモーションの効果を最大化できるよう取組む必要がある。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症による制限の撤廃に伴い感染症拡大以前の観光客数が戻ることが見込まれるため、これまで以上に関係市町村との連携が重要となる。</p> <p>③公共交通機関の利用体系の整備や駐車場の確保といった交通課題への対応が必要である。</p> <p>④スポーツキャンプの受入にあたり、市町村及び競技団体等の関係者と施設整備や受入体制の構築等、合宿環境整備を行う必要がある。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症の影響により、海外チームの誘致が難しくなっている。</p> <p>⑤本県で合宿を実施することの優位性や課題を検証し、スポーツキャンプ地としての認知度向上及びスポーツコンベンションの拡大発展に繋げる必要がある。</p> <p>⑥⑦新型コロナウイルス感染症の影響も和らぎ、海外クラブチームからの問い合わせも出てきているが、国内チームとのトレーニングマッチが調整できずにキャンプ見送りとなった。</p> <p>⑥⑦Jクラブや海外クラブから沖縄キャンプの実施希望が多くあるが、受入可能なグラウンドが不足している状況である。</p>	<p>①引き続き、イベントに精通したアドバイザーによる事業者支援を行う必要がある。また、本体イベントに付帯する事業についても支援を行い、稼ぐ力の向上を図る必要がある。</p> <p>②本県の自然的特性や地理的特性を活かしたスポーツツーリズムの推進</p> <p>②地域プロスポーツチーム、国際大会等を活用したコンテンツ制作とプロモーションの実施</p> <p>②消費単価の向上、滞在日数の長期化につなげる取組</p> <p>③受入市町村と連携し、球団・観光客・県民の皆様が満足していただける体制の構築を図る必要がある。</p> <p>③来訪者からの要望で多い交通機関等の情報をポータルサイトやガイドブックで周知する必要がある。</p> <p>④海外からのインバウンド及び合宿需要が高まりつつあることから、外部相談案件の増加が想定されるので柔軟に対応していく必要がある。</p> <p>⑤受入自治体等の関係機関と連携し、安全安心に合宿できる受入体制の構築を図る必要がある。</p> <p>⑤国際大会事前合宿の受入実績をアピールし更なる合宿誘致に努める必要がある。</p> <p>⑥⑦継続的な合宿のために受入市町村とクラブチームの関係構築の向上を図る必要がある。</p> <p>⑥⑦キャンプ実施クラブ数を増やすため、受入施設の拡大を図る必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①採択事業者に対し、安定的な収入の獲得方法等、アドバイザーによる定着化・自走化を目指した定期的な支援を行う。</p> <p>①スポーツイベント情報を多く扱うwebサイトやスポーツコミッション沖縄等県と関わりのある機関とも連携し、広くイベントの周知を図る。</p> <p>②スポーツツーリズムの実態を調査するとともに、プロモーションのターゲットを選定し、消費単価拡大、長期滞在に向けた取組みを検討する。</p> <p>②本県の魅力がより活かせる地域(アジア、東北・北海道、内陸県など)、種目(ランニング、サイクリング、ゴルフ、アクティビティ、空手など)、客層(富裕層、ワーケーション、スポーツ愛好家、トップアスリートなど)等に対するプロモーションを推進</p> <p>②令和5年度においては、令和5年8月に開催されるFIBA/バスケットボールワールドカップ2023を活用したプロモーションを実施する。</p> <p>③これまで以上に、ガイドブックやポータルサイトやSNS等を活用し、キャンプ情報だけでなく、受入市町村の特産品や観光資源、各地を周遊を促進する交通情報等、地域振興に寄与する取組を実施する。</p> <p>④年間を通して県内スポーツで盛り上がるよう、市町村及び関係団体と連携しスポーツイベントなどで沖縄県のスポーツ環境PRといった誘致活動に取り組んでいく。また、各市町村が抱える課題をもとにアドバイザー派遣業務を行うとともに、過去に実施した派遣先について助言等が生かされているかを確認する。</p> <p>⑤関係機関と連携し、スポーツキーパーソン招聘や合宿実証をとおした受入課題の抽出を行い、受入環境の向上を図るとともに、さらなるスポーツコンベンションの誘致拡大を推進する。</p> <p>⑥⑦女子クラブ誘致や離島へのキャンプ誘致を推進し、サッカーキャンプ受入件数の増加を図る。</p> <p>⑥⑦継続的な合宿のため受入市町村とクラブチームの交流を支援する。</p> <p>⑥⑦受入施設を拡大するため、県内各市町村と連携することにより、質の高い芝環境の整備を実施する。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
275,091	247,870	198,296	49,574	0	0	27,221





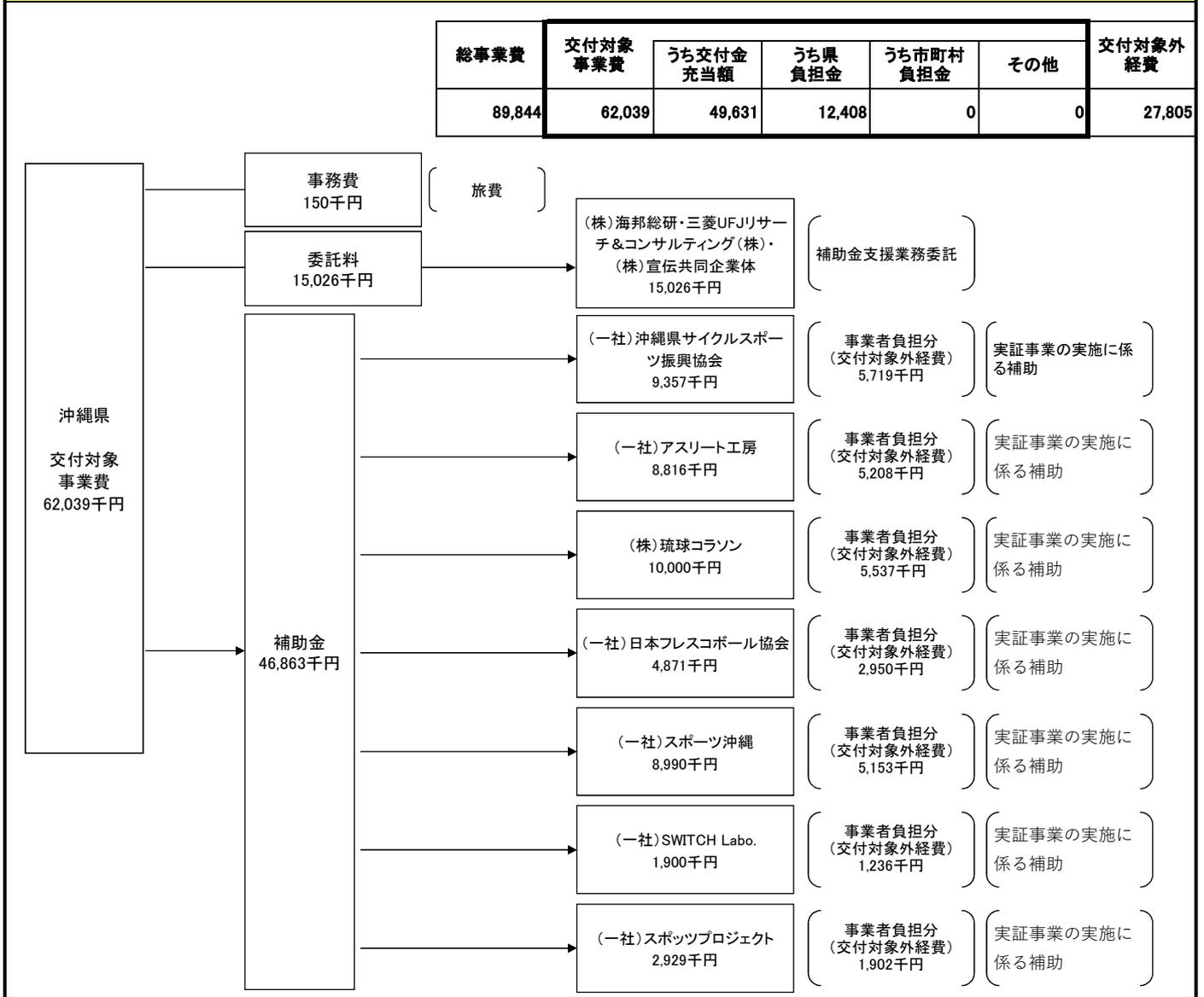
資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○補助事業者は有識者等による審査委員会により実施体制、事業内容等を勘案した上で選定しており、妥当であった。 ○受益者(補助事業者)は総事業費の3分の1又は2分の1を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。 ○本事業は、公平・中立な立場での業務遂行が求められるほか、行政の観光施策や県内外のスポーツ観光に関する情報に精通し、またスポーツ関連団体及び観光関連団体と連携して実施するため、該当する唯一の団体である(一財)沖縄観光コンベンションビューローへの随意契約は妥当であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○補助事業者は、競技ごとの受入ノウハウや人的資源等を有する県内各競技団体と密接な関わりを持ち、連携を取って、スポーツコンベンション誘致・受入に関する効率的な対応ができることを勘案し選定した。

令和4年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	166	スポーツアイランド沖縄形成に向けた付加価値構築支援事業	新沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-3-(9)-ア-②		
担当部署名	文化観光スポーツ部スポーツ振興課	事業実施 (予定)年度	R 4 ~ 13 年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	スポーツを核とした新たな産業の 創出とグローバル展開 Ⅲ-1-(4)	
事業内容	新たな沖縄振興計画に掲げられたスポーツアイランド沖縄の形成を目指すため、県内のスポーツ環境等へ付加価値構築を図る実証モデル等を検証するとともに、当該モデルを提供する事業者に対して環境構築に係る支援を行い、新たな商品やサービスの創出を促す。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】		R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	R3年度(繰越)	R4年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額					65,669
		(b)予算現額					65,669
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)前年度繰越額	0		0		0
		A. 計(b+d)	0	0	0	0	65,669
	B. 執行済額						62,039
	うち交付金充当額						49,631
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率(%) (B/A)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	94.5%
予算の状況の説明		執行率は約94.5%であり、主に補助金の実績報告に伴う執行残が発生したことによるものである。					
活動目標(指 標)及び 進捗状況	R4活動目標(指標)		進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	
	支援件数	目標				5件	
		実績				7件	
進捗 状 況 説 明	関係機関を通じた広報物の配布、HP、事業説明会の開催等により提案募集を行い、11件の応募があった。審査委員会での審査の結果、このうち7件を採択し、県産の素材を活用したスポーツ用品開発や測定データ活用サービスの開発等の取組を進めることができた。						
成果目標(指 標)及び 達成状況	R4成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値 (〇〇年度)
	スポーツ・ヘルスケア関連産業の創出に向けたビジネスマッチング件数		目標			40件	
			実績			44件	
	達 成 状 況 説 明	実績は44件となっており、目標値を上回っている。各種施策の実施によるほか、民間法人においてもマッチングの機会創出に取り組んでおり、進捗につながっている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	既にスポーツ関連の事業を実施している法人や団体の単独での提案が多く、ものづくり、ICTや医・科学分野など、他の産業やサービスと連携を深めた提案の増加が課題	・ スポーツは、新産業の創出に向けて利活用すべき地域資源として有望視されているものの、県内においてはまだ認識が不足しており、周知広報等に改善の余地がある。
今後の取り組み方針		
・ 広報物や事前説明会などにおける周知・説明において、他の産業やサービスとの連携を強調することにより、既にスポーツ関連の事業を実施している法人や団体のみならず、県内の各産業分野とスポーツが連携した提案が増加するよう取組む。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ 委託事業者は企画提案により実績、実施体制、事業内容等を助案した上で選定しており、妥当であった。 ○ 補助事業者は有識者等による審査委員会により実施体制、事業内容等を助案した上で選定しており、妥当であった。 ○ 受益者(補助事業者)は総事業費の3分の1を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。 ○ 費目・用途については額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	